

普及サポーター育成教材
(完成版)

2020. 4

日本スクエアダンス協会

普及特別委員会

目次

プロローグ	2
第1章 普及サポーター育成マニュアル	3
1. はじめに	3
2. 普及サポーターが必要とされる背景	3
3. 普及サポーターの役割と行動の基本	4
4. TAIKEN プログラムの構成	6
5. 動作の説明方法（初めての TAIKEN プログラム）	9
6. 普及サポーターの心得	13
7. 座学の活用	15
8. 体験教室のプログラム	16
9. おわりに	17
別添1	18
別添2	22
第2章 体験会・体験教室の実施（運用）マニュアル	27
1. はじめに	27
2. 体験会の実施	27
3. 体験教室の実施	30
4. おわりに	32
エピローグ	33

プロローグ

スクエアダンスの仲間を増やして楽しく踊りたいなあと思っている方。でも、どうやって増やしたらよいかわからない方。また、ビギナークラスを開催してもなかなか集まらない、高齢化で例会の参加人数が減ってきた・・・そんなお悩みのある方はビギナーさんを獲得するにはどういう行動をしたらいいか、みんなで考えてみませんか？

日本スクエアダンス協会では、従来の延長線上の普及の取り組みだけでは今後愛好者の増加は難しいとの判断で、2014年12月の執行役員会において「スクエアダンスの新しい普及方策」を打ち出しました。そしてその中の柱としては「体験者10万人運動」と「普及サポーターの育成」を掲げておりその取組の成果が報告されてきております。

普及サポーターは、コーラーの代行ではありません。

コーラーは、今まで通り初心者講習会でビギナーを育て、また、例会やパーティーでダンサーを楽しく踊らせる役割に変わりはありません。

普及サポーターは、**TAIKEN**プログラムの音源を使って未経験者にスクエアダンスを体験させる役割であり、その役割をダンサーが担う事で普及の裾野を広げようとするものです。また、普及サポーターからコールに興味を持ってコーラーを希望する方ができることも期待しています。いずれにしても、普及サポーターによる体験教室の開催を目指して普及サポーターを育成して下さい。

第1章 普及サポーター育成マニュアル

1. はじめに

日本におけるスクエアダンスの普及は、1990年代からクラブ数、愛好者数ともに大きな伸びを見せましたが、2000年代後半から伸びが少なくなり、特に2010年以降、愛好者数は15,000人を前に停滞しています。

そこで2014年、「スクエアダンスの新しい普及方策」（別添1）が執行役員会の審議を経て理事会で承認され、普及の基本指針としてS協の普及活動が進められてきました。「スクエアダンスの新しい普及方策」では、体験会・教室の開催および地域普及支援者として「普及サポーター」の養成・確保が重要な課題として掲げられています。

そこでS協は、全国で普及サポーターを養成する研修会および講習会の開催を推奨し支援してまいります。今後、支部講習会や県単位の講習会で「普及サポーター育成コース」が設けられて大勢の普及サポーターが育成されていくことを願うものです。

まずは体験会・教室の意義および普及サポーターの役割をしっかりと認識いただき、組織を挙げて取り組んで頂けることを望みます。

2. 普及サポーターが必要とされる背景

1946年長崎で、進駐軍民間教育担当官のW.P.ニブロ博士によって初めて日本にスクエアダンスが紹介されました。これは日本におけるスクエアダンスの幕開けであると同時に日本におけるフォークダンスの幕開けでもありました。それから半世紀を経て日本におけるフォークダンス人口は200万人以上ともいわれる規模まで普及しました。それに対してスクエアダンス人口は約1万5千人です。何故ここまで普及人口に違いが出てしまったのでしょうか。もちろんダンスそのものが持っている特徴や普及のプロセスの違いもありますが、その決定的違いは指導者の規模ではないでしょうか。

フォークダンスは極めて多くのダンサーが指導者となって普及活動が展開されて来ました。一方スクエアダンスはコーラーと言う特殊な存在があり、主としてコーラーが指導者として普及活動を展開してきた経緯があります。現状でもコーラーの数はダンサーの僅か8%程度です。そこで、スクエアダンスの新しい普及方策では、コーラーが不在であっても音源を利用して未経験者にスクエアダンスの入り口の楽しさを伝えることのできるダンサー（「普及サポーター」と呼ぶ）を育成し、スクエアダンスの体験者を増やしていくことにしました。

表-1 コーラー（有級指導者）の数（2017.3）

支部	全国	北海道	東北	関東	中部	近畿	中・四国	九州
S協会員(人)	14546	869	759	7725	2088	1845	783	477
有資格者(人)	1098	28	69	526	225	94	91	65
会員比率	8%	3%	9%	7%	11%	5%	12%	14%

2017年7月にS協は愛好者の高齢化への対応調査を実施しました。その結果、愛好者の年齢構成が急速に高齢化に推移している実態が明らかになりました。10年前の

愛好者の年齢構成は 50 歳代、60 歳代でしたが現在は 60 歳代、70 歳代になっております。（別添 2）

このままで推移すると今後 10 年後の愛好者は 70 歳代、80 歳代となり、愛好者が減少することが予測されます。また、同時にこの 10 年で大多数のコーラーもリタイア時期を迎えることでしょう。今後、コーラーのリタイアを補うためにも、また、スクエアダンスを紹介したり、楽しさを伝えられる「普及サポーター」の役割が重要になってきます。S 協としては、愛好者の 20% 程度の普及サポーターの養成を目指していきたいと考えています。そして、この「普及サポーター」の中からコーラーを目指す人材も出てくるのが期待できます。

当初、「新しい普及方策」を検討する中で、普及サポーターが動作の説明をして音源で踊らせることは、本来のスクエアダンスの「コーラーによる意外性や変化のある動作の振付けの楽しみ」を奪うものとの意見もありました。それには一理ありますが、スクエアダンスを知らない方に TAIKEN プログラムの音源（CD）を使って体験して頂くのであれば、スクエアダンスを一人でも多くの人に知ってもらうためにも意義があるのではないかと言うことになり、取組みは開始されました。そして、TAIKEN プログラムが開発され音源 CD が制作されました。

3. 普及サポーターの役割と行動の基本

普及サポーターの役割は、体験会・体験教室の企画、開催、指導に当たることです。そして、普及サポーターは、スクエアダンスが大好きでスクエアダンスの普及に情熱をもって取り組んでいただける方であることが何より大切です。普及サポーターはベテランダンサーである必要はありません。数年程度のメインストリームダンサーとしての経験があれば十分に務まります。

普及サポーターは、コーラーではありません。コーラーは初心者講習会でスクエアダンスを講習するにあたって動作の定義、ハンドワーク、タイミング等々について正確に理解しておくことが必要ですが、普及サポーターには、コーラーほどの完璧さを求めるものではありません。普及サポーターに求めることは、音源に録音されている動作を TAIKEN プログラム指導マニュアル（サポーター用）に準じて説明することです。説明後に音源を再生し体験者に踊ってもらい、体験者の理解が不足していたところは再度音源を止めて説明を補足し、そして、何度でも音源を再生し踊れるようになるまで反復してください。

普及サポーターとしての行動の基本は次の 3 つです。

① 教えすぎない

音源にないことは説明しない。異なる説明があると、混乱を生むことがあります。

① 完璧を求めない

手の取り方・握り方や動作のタイミングなどは、多少曖昧であってもよしとする。難しい、自分にはできないと感じないように注意しましょう。

② 楽しさを伝える

とにかく音楽に合わせて身体を動かす楽しさを感じてもらおう。「スクエアダンスって楽しそう」、「やってみようかしら」と思ってもらうだけで大成功です。動作

ができた時には、上手に褒めて、やる気を起こすような工夫も大切です。

体験会・体験教室で、普及サポーターとしての役割を果たすためには準備が必要です。まずは「**TAIKEN** プログラム」の音源を何度も聞き、実際に声を出して動作の発音トレーニングをして下さい。普及サポーターには、クリアーに大きな声で発音できることが求められます。また、チップ毎にコールされている動作の説明方法について、自分なりにメモを作って下さい。何度も繰り返して普及サポーターを経験するとそのようメモは不要になってきますが、初めのうちは説明漏れを防ぐため、メモがあるとよいでしょう。そして、メモを作成するに当たっては「絵で見るスクエアダンス～ハンドブック・パートⅠ」と「**TAIKEN** プログラム指導マニュアル（サポーター用）」を活用して下さい。

4. TAIKEN プログラムの構成

※オーディオ教材解説書「TAIKEN プログラム」より抜粋（S 協ホームページよりダウンロードができます）。



(2016年11月26日作成)

共通コース (Common Cols)

- 1) Circle Left / Right
- 2) Forward and Back
- 3) Dosado
- 4) Couples Promenade (Full, 1/2)
- 5) Alternade Left
- 6) Right and Left Grand
- 7) Pass Thru

第1回講習課題 (Pattern#1)

- 8) Alternade Right
- 9) Left Hand Star / Right Hand Star

第2回講習課題 (Pattern#2)

- 10) California Twirl
- 11) Half Sashay
- 12) U-Turn Back

第3回講習課題 (Pattern#3)

- California Twirl
- 13) Star Thru
 - 14) Right and Left Thru

第4回講習課題 (Pattern#4)

- 15) Grand Square
- 16) Swing
- 17) Single File Promenade

第5回講習課題 (Pattern#5)

- Star Thru
Right and Left Thru
- 18) Dive Thru

第6回講習課題 (Pattern#6)

- Right and Left Thru
- 19) Lead Right
 - 20) Veer Left
 - 21) Bend the Line

- * このプログラムは6週間(または6回)継続し毎回参加者が異なる体験教室を想定して作成されました。
- * 体験教室の第1回講習では共通コースと第1回講習課題により指導されます。第2回講習では共通コースと第2回講習課題により指導されます。第3回講習以降も同様のパターンで指導されます。
- * 体験教室に継続して参加される方を指導する場合はこのプログラムをティーチングオーダーとして活用することもできます。
- * 講習パターンを選択することにより回数を調整することができます。Swing を避けたい場合は第4回講習課題を省いても結構です。
- * 単発の体験会では体験教室の第1回講習のパターンで指導することをお奨めします。
- * 挨拶(Bow)とスクエアセットの説明は別途行います。
- * 指導の際は「TAIKEN プログラム指導マニュアル・サポーター用」(S 協ホームページからダウンロードできます)と日本フォークダンス連盟発行の「絵で見るスクエアダンスハンドブック パートI」をご活用ください。

オーディオ教材について

「TAIKEN プログラム」を活用したコースをCDに収録しました。ダンサーだけで実施する体験教室や経験が少ないコーラーが指導する時の補助教材としてご利用ください。

体験教室に継続して参加される方を指導するときは「レビューTjp」をご活用ください。

言い方に個人差がありますが同じ動作です。

Forward and Back

=Forward Up and Back

=Go Up to the Middle and Back

Right and Left Grand

=Grand Right and Left

=Grand ol Right and Left

Left Hand Star/Right Hand Star

=Star Left/Star Right

=Star by the Left/Star by the Right

シンギングコースの構成は次の通りです

オープナー

導入部

フィギュア①

振付けられたダンス

フィギュア②

振付けられたダンス

ミドルブレイク

中休み

フィギュア③

振付けられたダンス

フィギュア④

振付けられたダンス

クローザー

締め括り

タグ

最後のおまけ

CALLER (コーラー): 大川 康太郎

PATTER CALL (パターコール)

- 1 Bow to your Partner
Bow to your Corner
Join Hands Circle Left
Everybody Forward and Back
Circle Right
Everybody Forward and Back
Circle Left
Face your Corner Allemande Left
Partner Right and Left Grand
Promenade
Get Back Home
- 2 Heads Forward and Back
Heads Dosado
Sides Forward and Back
Sides Dosado
Everybody Join Hand Circle Left
Face your Corner Allemande Left
Partner Right and Left Grand
Partner Promenade
Get Back Home
- 3 Heads Forward and Back
Heads Pass Thru
Heads Promenade 1/2 way
Sides Forward and Back
Sides Pass Thru
Sides Promenade 1/2 way
Join Hand Circle Left
Face your Corner Allemande Left
Partner Right and Left Grand
Promenade
Get Back Home
- 4 Join Hands Circle Left
Everybody Forward and Back
Circle Right
Everybody Forward and Back
Circle Left
Face your Corner Allemande Left
Partner Right and Left Grand
Promenade
Get Back Home

- 5 Sides Forward and Back
Promenade All way round
Heads Forward and Back
Promenade All way round
Everybody Join Hand Circle Left
Everybody Forward and Back
Circle Right
Everybody Forward and Back
Circle Left
Face your Corner Allemande Left
Partner Right and Left Grand
Promenade
Get Back Home
- 6 Everybody Forward and Back
All 4 Boys Forward and Back
All 4 Girls Forward and Back
Bow to your Partner
Bow to your Corner

※TAIKEN プログラム音源 CD は有料 (1枚 1500円) で S 協事務局で販売しています。音源 CD はカセット
デッキ再生用と PC 再生用の 2 種類があります

TAIKEN プログラムは、ベーシック動作の内 21 動作を取り上げています。体験教室の初回の動作の説明は、TAIKEN プログラムの共通コールズの 7 つの動作から始めます。その後の進め方は、体験教室の回数や参加者の年齢構成などを勘案して、カリキュラム（指導計画）を決めて下さい。体験教室は、動作を教えることが目的ではありません。あくまでも、スクエアダンスの楽しさを知って頂くことが目的です。

さて、具体的に TAIKEN プログラムの共通コールズの 7 つの動作の説明に当たっては、教材として提供されている「初めての TAIKEN プログラム」を参考にと良いでしょう。普及サポーターはコーラーではありませんので、音源のコールの部分では、口頭での動作の説明で十分です。動作の説明は、必ず TAIKEN 講習資料に書かれている組み立てに沿って進めて下さい。独自の組み立てで説明することは好ましくありません。

TAIKEN プログラムでは複数のコーラーの振付が収録されています。事前に普及サポーターは動作の組み立てをチェックして下さい。現時点での未体験者のレベルでは難しい振付と判断した場合は、その組み立てをしている音源の利用は避ける必要があります。利用に際しては必ず事前に音源内容をチェックしましょう。

TAIKEN プログラムの音源には、コーラーにより動作の言い回しに微妙な違いがあります。これはコーラーの癖でもありますが、コーラーによっては同じコールの中でも若干異なる言い回しをしています。例えば共通コールズの金子 Jr 氏は Forward up and Back、Grand Right and Left で大川氏は Forward and Back、Partner Right、Right and Left Grand です。慣れたダンサーは何の問題もなく聞き流しますが、初めての未経験者は普及サポーターが実際に踊る音源と異なる言い回しをすると戸惑います。したがって、これから TAIKEN プログラムのいろいろなコーラーの音源を使ってウオークスルーをして踊らせる場合は、この点を事前に音源を聞いて確認しておかなければなりません。解説書では、ここまで丁寧な記載はしておりません。

5. 動作の説明方法 (初めての TAIKEN プログラム)

※共通コールズを取り上げて普及サポーターがどのように動作の説明をしたら良いかの解説した解説書および CD です。この他 TAIKEN プログラムでの動作については「TAIKEN プログラム指導マニュアル(サポーター用)」が S 協ホームページ「情報コーナー」にアップされております。



共通コールズ(Common Calls)

1) Circle Left / Right

(サークル・レフト/ライト)

全員が手を繋いで一つの大きな輪を作ることから始めます。性別は関係ありません。スクエアセットから始めても結構です。

全員手を繋いで輪を作ります。

音楽に合わせてサークル上を左に歩きます。

Circle Left! 左に歩きましょう 1、2、1、2。

Circle Right! 右に歩きます 1、2、1、2。

Circle Left... **Circle Right...** **Circle Left...**

2) Forward and Back ①

(フォワードアンドバック)

全員が手を繋いだ大きな輪で教えます。その場合は、性別は関係ありません。スクエアセットから始めても結構です。

全員手を繋いで中に向かって3歩 前進します。

1、2、3。4歩目はチョンと床にタッチします。

そこから後ろに3歩後退します。1、2、3。4歩目はチョンと床にタッチします。このように前進後退することを **Forward and Back** といいます。

Forward and Back!

1、2、3、チョン、バック2、3、チョン

皆でサークル左に歩きます(**Circle Left**)

皆で前進後退 **Forward and Back**

Circle Right 右へ行きます.....

前進後退 **Forward and Back**

前進するときは皆で大きな声を上ると楽しいです
ヤッホー!でも ハイ!でも ハイハイ!でも
ハイハイハイ!でも 何でもOKです

サークル左 **Circle Left**

Everybody Forward and Back!

Circle Right...**Everybody Forward and Back!**

3) Forward and Back ②

スクエアセットの説明をするときは「絵で見るスクエアダンス〜ハンドブック・パートI」ダンサーネーミングのページを拡大コピーして掲示するとたいへん役に立ちます。

スクエアセットを確認します。

1組さん手を上げてください。

2組さん... 3組さん... 4組さん...

1組3組さん...2組4組さん...

1組3組さんをまとめて **Heads** と呼びます。

2組4組さんをまとめては **Sides** と呼びます。

向かい合っているカブルが **Forward and Back**

をするときは、前進したとき、お互いに空いている外側の手をパチンと合わせます。

Heads 1組3組 **Forward and Back**

1、2、3、パチン、バック、2、3、4

Sides 2組4組 **Forward and Back**

1、2、3、パチン、バック、2、3、4

Join your hands Circle Left

Forward and Back

Circle Left, Get Back Home!

Heads Forward and Back

Sides Forward and Back

Join your hands Circle Left...

Get Back Home!

4) Dosado (ドーサードー)

先ず Partner と Corner の説明をします。

次に挨拶の仕方を説明します。

「絵で見るスクエアダンス～ハンドブック・パート I」と「TAIKEN プログラム指導マニュアル」を活用してください。

Bow to Your Partner, Bow to Your Corner

お互いに目を合わせて、ニコリ笑ってもう一度。

Bow to Your Partner, Bow to Your Corner

向かい合ったパートナーと右肩すれ違いでお互いに3歩で通り過ぎます。4歩目で右横に1つ移動します。顔の向きを変えないで左肩すれ違いで後ろに3歩下ります。4歩目で左に1つ移動して元の位置に戻ります。

パートナー、Dosado 1、2、3、4、5、6、7、8
コーナーと向かい合い、同じ要領で Dosado を行います。

コーナー、Dosado 1、2、3、4、5、6、7、8

Bow to Your Partner, Bow to Your Corner

Join your hands, Circle Left...

Everybody Forward and Back

Corner Dosado...

Circle Left...Get Back Home

Join your hands, Circle Right...

Everybody Forward and Back

Partner Dosado...

Circle Right...Get Back Home

向かい合ったカプル同士で

Heads Dosado 1、2、3、4、5、6、7、8

Sides Dosado 1、2、3、4、5、6、7、8

Circle Left...Get Back Home!

Heads Forward and Back, Dosado

Sides Forward and Back, Dosado

Circle Left...Get Back Home!

5) Couples Promenade

(カブルズ・プラマネイド)

プラマネイド・ポジションを説明するときはサポーターがお手本を見せると良いでしょう。

パートナーと向かい合い右手で握手をします。その手を離さないで左手も右手の下で握手をします。両手を繋いだまま女性が男性の右隣に立つようにして二人が並びます。男性の掌は上を向け、女性はその掌の上に自分の手を乗せます。カブルが両手を繋いだまま同じ方向を向き、スクエアセットの周りを歩くことを Promenade といいます。

Bow to Your Partner, Bow to Your Corner

Join Your Hands, Circle Left...

Everybody Forward and Back

Corner Dosado

Partner Promenade, Get Back Home

Heads が Promenade Half Way でお向かいの場所まで行くとき、Sides は前進して Heads が後を通りやすくしてあげます。

Heads Promenade Half Way !

Sides が Promenade Half Way でお向かいの場所まで行くとき、Heads は前進して Sides が後を通りやすくしてあげます。

Sides Promenade Half Way !

Heads Promenade Half Way...家に帰ります

Sides Promenade Half Way...家に帰ります

Bow to Your Partner, Bow to Your Corner
Circle Left...Everybody Forward and Back
Corner Dosado...
Partner Promenade...Get Back Home!
Heads Promenade Half Way...
Sides Promenade Half Way...
Heads Promenade Half Way...
Sides Promenade Half Way...
Corner Dosado, Partner Promenade...
Get Back Home!

6) Allemande Left (アレマンド・レフト)

フォアアーム・ターンを説明するときはサポーターがお手本を見せると良いでしょう。

全員 Corner と向かい合い左腕を取り合います。
左腕を取り合ったままお互いに顔の向いている方向に歩いて回ります。Partner と向い合うところまで戻ったら終わりです。

全員 Corner と向かい合って、左腕で回ります。

Allemande Left !

Partner と向き合ったら Promenade

Get Back Home

Bow to Your Partner, Bow to Your Corner

Corner Allemande Left, Partner Dosado,

Promenade...Get Back Home

Circle Left, Forward and Back,

Corner Allemande Left

Partner Dosado

Corner Allemande Left

Partner Promenade

Get Back Home

7) Right and Left Grand

(ライト・アンド・レフト・グランド)

Right and Left Grand あるいは

Grand Right and Left とコールされたら、

Partner と向かい合って右手を取り合います。

お互いに目をあわせて微笑み、その手を軽く引き合って通り抜けます。次の人と左手で通り抜け、その次と右手で通り抜け、最後に左手で通り抜けて

Partner と再び出会います。

Partner と Promenade, Get Back Home

注釈：特にシンギングの場合はカップルプラマネードは少なくとも

1/4回以上しなければなりません、パターコールの場合は直ちにホームポジションに戻って次の動作に入らなければ

TAIKEN プログラムの音源での踊りは間に合いません。

Bow to Your Partner, Bow to Your Corner

Circle Left... Forward and Back

Corner Allemande Left

Partner Dosado

Corner Allemande Left

Partner Grand Right and Left

(Right and Left Grand)

Partner Promenade

Get Back Home

Heads Forward and Back

Heads Promenade Half Way

Sides Forward and Back

Sides Promenade Half Way

Corner Allemande Left

Partner Right and Left Grand

(Grand Right and Left)

Partner Dosado

Promenade, Get Back Home

Bow to Your Partner, Bow to Your Corner

8) Pass Thru (パス・スルー)

Heads Pass Thruとコールされたら、Headsは前進してお向かいの人を右肩すれ違いで通り過ぎます。1組は3組の位置で、3組は1組の位置で外を向いて終わります。

Heads Pass Thru,
Heads Promenade, Get Back Home

Sides Pass Thruとコールされたら、Sidesは前進してお向かいの人を右肩すれ違いで通り過ぎます。2組は4組の位置、4組は2組の位置に行きます。

Sides Pass Thru,
Sides Promenade, Get Back Home

Bow to Your Partner, Bow to Your Corner

Heads Forward and Back

Heads Pass Thru

Promenade, Get Back Home

Sides Forward and Back

Sides Pass Thru

Promenade, Get Back Home

Corner Allemande Left,

Partner Grand Right and Left...

Partner Promenade, Get Back Home

9) Review (復習)

Bow to Your Partner, Bow to Your Corner

Join your hands, Circle Left...

Everybody Forward and Back(大きな声で)

Corner Allemande Left

Partner Dosado

Corner Allemande Left

Partner Grand Right and Left

(Right and Left Grand)

Partner Promenade, Get Back Home

Heads Forward and Back

Heads Pass Thru

Promenade, Get Back Home

その間に Sides Dosado

Corner Allemande Left

Partner Grand Right and Left...

Partner Promenade, Get Back Home

Sides Forward and Back

Sides Pass Thru

Promenade, Get Back Home

その間に Heads Dosado

Corner Allemande Left

Partner Grand Right and Left...

Partner Promenade, Get Back Home

Join your hands, Circle Left...

Everybody Forward and Back,

Corner Allemande Left

Partner Dosado

Corner Allemande Left

Grand Right and Left

Partner Promenade, Get Back Home

Bow to Your Partner, Bow to Your Corner

「TAIKEN プログラム」に初めて参加した方を指導するとき、この教材を活用してください。

作成日:2018年1月20日

作成者:

一般社団法人日本スクエアダンス協会

技術委員会

体験教室教材作成タスクチーム

6. 普及サポーターの心得

- ① 普及サポーターは、ダンサーにとってみればコーラーと同じ存在です。普及サポーターは、ダンサーにスクエアダンスを楽しませる役割を担っている指導者であるとの意識をもって堂々と指導してください。驕らず謙虚な姿勢も大切ですが、それが出過ぎると、ダンサーには指導者として地味で真面目なイメージとなり全体の雰囲気盛り上がりません。余裕やユーモアを持つことは指導者とした大切な資質です。指導者が緊張していると、その雰囲気が受講生にも伝わります。受講生をリラックスさせることも指導者の重要な役割です。
- ② 『音源に入っているコーラーが指導者としての主役』で『普及サポーターはその助手』ということではありません。指導者としての主役は、あくまでもマイクを握った普及サポーターであり、音源は道具にすぎません。例えば、コーラーがダンサーを全く見ないでライトアップの紙ばかりを見て行うコールはつまらないでしょう。それと同じで、普及サポーターもダンサーを全く見ないで音源のコールのライトアップをただ読んでいるのではダンサーはつまらないものです。時々でも結構ですから、ライトアップから目を離してダンサーを見てあげてください。別にライトアップをメモリー（暗記）する必要はありません。
- ③ 普及サポーターは常に T.P.O（時と場所と状態）を考えて指導に当たることが必要です。例えば、体験教室の初日に初めて参加する方は不安な気持ちで一杯です。そのような時はすぐに動作の説明に入るのではなく、少しでもその不安な気持ちを和らげるように参加者をリラックスさせてあげることが必要です。特に初日のレッスンは重要です。これから続けて参加してくれるかどうかは、全てが初日にかかっています。それには普及サポーター自身が緊張せずリラックスして楽しむ姿勢が必要です。そして、ダンサーが上手に踊れたときは心からほめてあげることが大切です。また、ほめるタイミングは単に上手く踊れた時だけではありません。「笑顔はよかった」、「姿勢がよかった」など、動作以外のことも含めてすべてほめることが、スクエアダンスのモチベーション（やる気）につながります。
- ④ 初めてのダンサーは、簡単な動作でも間違いを繰り返します。そんな時に普及サポーターは「どうしてこんな簡単な動作ができないのか」と苛立ってはいけません。必ずこの気持ちが「顔」に出るものです。間違えるのは普及サポーターとしての指導がまずいからで、ダンサーの責任ではないのです。気楽に何度でも、うまくいくまで繰り返しましょう。名指しの注意や指摘は「厳禁」です。ダンサーはプライドを持っています。ダンサーは立派な社会人です。名指しをすることで、その方のプライドを傷つけ、ダンスに興味をなくす原因になります。
- ⑤ 個々の動作の動きは理解していても、例えば「パートナーさんと DoSaDo, コーナーさんと Allemand Left , パートナーさんと Right&Left Grand」と連続してコールされると、未体験者は中々動けないものです。このように動作の連続パターンを音源で踊ってもらうときは、音源で踊る前に何度でもその組み合わせパターンを繰り返して、みんなが慣れるまで練習することが必要です。
- ⑥ また、体験教室を一人の普及サポーターで指導するのではなく、一人がマイクで動作の説明をしているときに、セットの近くで動作の補助をする普及サポーターをお

くなど、複数で協力しながら指導を進める工夫も必要です。

- ⑦ エンジェルダンサーには、常々笑顔と声だしを促して下さい。エンジェルダンサーにとって、単純な動作ばかりなのでどうしても表情から楽しそうな笑顔が無くなりがちですから、エンジェルダンサーへの配慮も大切です。
- ⑧ 未経験者は、最初のうち「ライト・レフト」にワンテンポ遅れます。音源のコールに重なっても良いので、普及サポーターはマイクで「右・左」と補足を日本語で加えてあげて下さい。予め、「ライト・レフト」と指示をして、手をあげたり、顔の方向を変えるゲームをしても良いでしょう。

6. 体験教室での指導手順

- ① エンジェルダンサーがモデルセットとして1セット手配できる時は、まずモデルセットで動作の説明を簡単にした後で **TAIKEN** プログラムの音源 CD（選択したコーラーのコール）で踊って見せます。
- ② 次に、未経験者を入れたセットで **TAIKEN** プログラムの音源 CD（選択したコーラーのコール）の動作の講習をします。ここでは音源は使いません。ここで一旦セットをブレイクします。
- ③ そして新しくセットを作り、選択したコーラーのコールの解説書に書かれているコールを、普及サポーターが音楽なしで口頭で順番に説明（ウォークスルー）してダンサーを動かします。動きが思わしくない場合は、何度でも繰り返して同じ説明をして下さい。必ず1回の説明は15分以内にして、15分をオーバーするようでしたら一度ブレイクして休憩を必ず入れて下さい。なお、ウォークスルーでは、必ず一つの動作が終了した時点で次の動作を指示するよう注意してください。
- ④ ひと通り普及サポーターの口頭での説明で動けるようになった段階で、初めて **TAIKEN** プログラムの音源 CD（選択したコーラーのコール）をカセットプレイヤーもしくはPCで再生して音源コールで踊らせます。もし途中でセットが壊れたら音源を一度止めて、セットが整ってから次のコールをスタートさせてください。音源 CD で踊らせる時間も15分で一度ブレイクして下さい。
- ⑤ 最後の仕上げは、選択したコーラーの音源 CD コールを一度も止めないで踊りきった段階で完成です。

7. 座学の活用

体験会・体験教室で、長時間体験者を立たせたまま口頭で説明することは避けてください。特に、初日のオープニングでは、次に示すスクエアダンスの説明やスクエアセットの体型の説明などは、配布資料を使って座学で説明しましょう。

●スクエアダンスの起源

17世紀の初めにヨーロッパからアメリカに移住した人々が、出生地のダンス（コントラダンスやカドリールなど）を変化させて作り上げたのがスクエアダンスの元祖と言われています。戦後間もなく、今踊られている意外性と都会的なセンスを加味したモダンスクエアダンスに改良されてきました。

●日本での歴史

戦後、進駐軍民間教育担当官のニブロ博士によって、アメリカ生まれのフォークダンスとして日本に紹介され、瞬く間に日本各地で踊られるようになりました。2016年にお亡くなりになった三笠宮崇仁親王殿下が、日本スクエアダンス協会の創設期に総裁として就任され85歳まで百合子妃殿下と共に踊られておられました。

●どこで踊られているか

アメリカ、カナダ、ドイツ、スウェーデン、イギリス、フランス、オランダ、オーストラリア、スイスなどの欧米や、アジア・大洋州のオーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、シンガポール、台湾、中国、韓国など世界各地で踊られています。日本は全国533団体、約15000名の愛好者がいます。

●どこの国でも踊れます

国際スクエアダンスコーラーズ協会（CALLERLAB）では、世界中どこの国でスクエアダンスを習っても、どこの国でも踊れるようにスクエアダンスの基本動作を定めています。日本のスクエアダンスは同協会の決定したプログラムに基づいて指導しておりますのでどこの国に行っても踊ることができます。

●健康増進に役立ちます

健康な生活を送るためには、良質な睡眠、バランスの良い食事、程度の運動が必要と言われています。軽快な音楽に合わせて、コーラーの指示にあわせて、みんなが協力して踊り、また、年齢や地域を超え、これまでと違った仲間と過ごす時間は、みんなの心も体も健やかにすることでしょう。

●主催団体の紹介（〇〇〇スクエアダンスクラブとは）

〇〇〇スクエアダンスクラブは〇〇〇年に〇〇市にスクエアダンスを楽しむスポーツ・レクリエーションサークルとして創設された団体です。当クラブは一般社団法人日本スクエアダンス協会および〇〇県スクエアダンス連絡協議会に加盟しスクエアダンスを通じて会員相互の親睦を深めスポーツ・レクリエーション団体として地域活動にも寄与する活動を行っております。

8. 体験教室のプログラム

TAIKEN プログラムの共通コースを使って開催する体験教室実施プログラムを下記に示します。①～④で1時間 ⑤～⑦で1時間です。体験教室が1時間の場合は①～④が初日で、⑤～⑦が2日目のプログラムとなります。2時間の教室の場合は、①～⑦となります。

最近の参加者の年齢構成は60代～70代が中心で、中には80代の方も参加しております。体験教室のカリキュラムは共通コースだけでも十分に楽しんで頂けます。音源のコーラーを代えれば途中から参加した方がいても参加者は飽きずに楽しむことができます。出来れば未経験者を入れたセットにはエンジェルダンサーが入って、未経験者の動きをフォローしてあげると未経験者が比較的スムーズに動くことができます。

① 座学 スクエアダンス紹介

② 未経験者を入れないモデルセットで、スクエアセット、バウ（挨拶）、カップルハンド（手の取り方）、共通コース（7動作）を紹介し音源で踊って見せる。

③ 未経験者を入れたセットで、スクエアセット、バウ（挨拶）、カップルハンド（手の取り方）、共通コース（7動作）の講習（音源は使わない）

④ 未経験者を入れたセットで、音源に入っているコールの振付け動きをウォークスルーした後、音源をかけて踊る。（何度も同じコールの音源をリピートして音源での踊りに慣れてもらう）

休憩

⑤ 未経験者を入れないモデルセットで、スクエアセット、バウ（挨拶）、カップルハンド（手の取り方）、共通コース（7動作）を再度未経験者に説明し、音源で踊って見せて復習してもらう。

⑥ 未経験者を入れたセットで、共通7動作の復習（音源は使わない）

⑦ 未経験者を入れたセットで、音源に入っているコールの動きをウォークスルーした後、音源をかけて踊る。

9. おわりに

研修会での実技研修では、限られた時間で大勢の受講生が自分のパートだけを担当せざるを得ませんが、これで即実践には役立ちません。即実践で役立てる様にトレーニングをしなければ、普及サポーターは普及の裾野を広げるための活動に取り組むことは困難です。せめて研修会での自分のパートだけではなく、共通コースの大川氏のコールを全て一人で出来るようにトレーニングすることが必要です。可能であれば所属クラブの会員の皆さんの理解を頂き、例会内で実践チップの経験を積ませて頂くことを望みます。普及サポーターによる体験教室の取り組みは運動論です。成果が出始めれば確実に一気にその取組が地域内、支部内に広がります。

各クラブでの新人確保の取り組みは、それぞれで今まではどうであったかは分かりませんが、これからは、今までの延長線上では、スクエアダンスの普及、愛好者増が困難であることは確かです。

研修会の内容を、クラブにお帰りになって会員の皆さんに熱く語って下さい。会の未来は会員が担っているのです。何もしなければ何も始まりません。上手くいく行かないは結果論です。とにかく会員の皆さんが行動を起こすところからは全てが始まります。新しい仲間を増やすことは、クラブの活動、S協の活動で最も力を入れて取り組むべきことに値します。まずは行動あるのみです。

スクエアダンスの新しい普及方策

2014年12月13日 執行役員会承認

はじめに

日本におけるスクエアダンス（SD）の普及は、1990年代からクラブ数、愛好者数ともに大きな伸びを見せましたが、2000年代後半から伸びが少なくなり、特に2010年以降、愛好者数は15,000人を前に停滞しています。

日本スクエアダンス協会（S協）は、SD愛好者で構成される組織ですが、2010年から非営利・共益型の一般社団法人として活動しています。S協は、法人格を得たことにより、SD愛好者・会員の楽しみを維持・向上すると共に、地域住民にレクリエーション活動機会の拡充による健康づくり・体力づくり、地域住民連帯の醸成による地域づくりなど公益性のある活動を行うことが、これまで以上に期待されています。こうした公益性ある活動を重ねることにより、地域にSDの楽しさを広げ、SDを愛好する住民が増えることにより、私たち愛好者自身の楽しみも、より大きなものになっていきます。

会員を対象とする共益事業と共に、SD普及による公益事業を重視していくためには、S協の運営基盤・財務基盤を強化することが必要です。

そのため、会員数の増を図ることによる会費収入を増やす一方、指導者の育成、リーダー・スタッフ、ダンサーの資質向上、各地域のSDクラブの運営支援、広報、地域交流・交際交流等の普及活動をよりいっそう活発に展開していくことが必要です。

新体制になったS協では、SDの認知度の向上、「SDの効果（普及上の強み）」*1の周知、SD体験機会の拡充、そして愛好者の拡大を図り、結果として会員の増加につながることを目指した活動を始めています。

その一環として、次のように、SDの体験者を増やすための方策の検討を、先ず、普及特別委員会の課題としてお願いしたいと思います。この新しい普及方策を実現させるためには、S協全体の組織で取り組んでいくことが必要です。

1. 体験機会の拡充

これまで、中学校の学習指導要領が改定され、平成24年度から保健体育において、ダンスが必修となったことを契機に、学校へのSD普及を通してSDの認知度を高める方策の一つとして、中学校へのSD普及活動をモデル的に実施することとしました。

そのための普及ツール（中学校用SD普及資料、SD紹介、VTR、指導DVD、指導テキストなど）の作成、中学校への普及に協力いただく人材（普及指導・協力者）の養成・確保、教育委員会等への普及広報などを実施して参りました。

今後、ジュニア層を対象に、学校・ジュニア普及小委員会を中心に、普及活動を行うこととしました。

同時に、中・高年層を対象に地域における普及を展開するため、地域普及小委員会を新たに設置し、幅広い年齢層へのSD普及活動を行うこととなりました。

この活動を進める一つの方法として、SDの体験教室、体験講習会、体験会など【SD体験教室】の開設を提案します。

この体験教室は、SD体験者を効果的に増やしていこうとするもので、現在のスクエアダンスの「楽しみ方」を変える提案ではありません。「楽しみ」をいっそう拡大するため、SDの愛好者を増やす方策としての提案です。そのため、スクエアダンスの普及のうえでの「課題（指導上の弱み）」*²を乗り越えて、スクエアダンスクラブの初心者講習会で受講しクラブに入る前に、SDの楽しみを味わってもらう「スクエアダンスへの誘い」の場を作ろうという考えです。クラブに入らず、SDを始めない方もいるでしょうが、SDの体験者が社会に拡大することは、将来のSD普及に向けて有益な活動となることでしょう。

2. SD体験教室の開設（開催）

「SD体験教室」の開催・開催は、常時開設するケース、一定の期間を限って開催するケース、数回にわたって開催するケース、特定の日時（1日、半日、1時間など）に開催するケースなど、さまざまな形態が考えられます。

教室が開かれる地域のSDクラブが実施あるいは協力いただくと、事業は比較的円滑に進められると思われませんが、各クラブには、それぞれ方針や事情がありでしょう。また、地域の公民館やコミュニティセンター、レクリエーション協会等の組織が開く場合（実際に開催されたり開催を計画されている例があります。）には、SDの地域組織やクラブが指導者を派遣することも考えられます。教室が開かれる会場に近く、時間の都合がつくコーラー等が自主的に協力することもあるでしょう。

各SD体験教室が指導の対象とする動作については、教室の形態、参加者の状況（人数、年齢層など）により、弾力的に考えることとなるでしょう。

各体験教室の指導（講習）内容は、現在のコミュニティ25の範囲、ベーシックとメインストリームの動作の一部など、主催者、指導・支援者が現在あるプログラムの中から最適と思うものをセレクトすることになるでしょう。当然、状況を想定した幾つかのモデルプログラムをS協として準備することが大切です。

これまで、S協機関紙の「種蒔き」でも色々なモデル的な体験事業が紹介されています。これまでの成果を参考にしながら、実施することが望ましいでしょう。

この提案は、中期的活動計画の枠組みで、先ず、実施可能ないくつかの地域でモデル的な試行を行い、その成果を見極めつつ、拡充していくことを考えています。

3. SDの地域普及指導・支援者【サポーター（仮称）】の養成・確保

「SD体験教室」を実施するためには、そこで指導し、支援する組織や人材が必要になります。

指導に当たっては、既にクラブ運営に関っているリーダー、コーラー、キ

ユア一等に参加いただくことが望ましいと思われませんが、S協の現状では、人数に限りがあります。

こうしたことを踏まえ、コーラーの育成にいつそうの努力をするとともに、学校指導・協力者と同じように、地域でSDを指導する指導・支援者（サポーター）*³の育成について、提案したいと思います。

地域における指導・支援ですから、SDの技術的な指導に加えて、SDの歴史・文化、地域の特性、多様な年齢層、様々な経験をお持ちの方へ指導の心構え・指導法などを予め理解できるよう、事前の講習等を考える必要があります。

そのための普及資料、養成テキスト（教材）、教室の運営マニュアル、指導プログラム、指導用音源などを準備する必要があります。普及委員会、技術委員会、人材育成委員会、広報委員会、交流委員会、統括支部などS協の組織をあげて取り組むことが必要でしょう。

これらの成果は、地域普及とともに学校・ジュニア層への普及、現クラブに運営にも役立つものと考えます。（この意義を考え、教員や保護者、体育指導員、PTA役員、学童保育関係者等の参加が望まれます。）

サポーターの養成は、地域や学校へのSD普及に協力する人材の確保につながるだけでなく、コーラーに新しい意識が生まれたり、コーラーを目指す方の支援となり、さらに、ダンサーの向上心、意欲を喚起し、社会で役立つことの喜びを高め、SD界の活性化につながることを期待しています。

一定の講習を終えた方には、現在学校SD指導協力者の登録、講習修了証書の交付と同じような扱いをとることを考える必要があります。

将来的には、S協のライセンスとすることが考えられますが、今後の進展を見極めながら検討することになるでしょう。

4. SD体験教室の展望

以上のような取り組みを進めることにより、SDの認知度が高まり、体験者が増え、

SD体験教室の経験した人が、クラブの初心者講習会に参加したり、クラブに入会することにより会員が増加していくことが望まれます。

各クラブでは、例会のなかで定期的に初心者講習会を実施していただいたり、地域の公共施設等のイベントで体験会を行っていただいておりますが、その実態は明らかではありません。体験者を増やすことにあわせて、この際、初心者講習会や体験会の実態*⁴を把握し、それらの充実、改善を図っていくこと、退会者の状況把握と対策などが会員増には不可欠です。会員登録更新時などに、把握する工夫をしたいと思います。

SD教室を体験した人が、年齢や心身の状況、家庭の事情等により、現在のクラブに参加できないケースも生じることが考えられます。そうした場合には、SD体験教室の成果の上に、新しいクラブ（クラブの実態に最もふさわしい内容のプログラム）を立ち上げたり、SD体験教室が発展してクラブ

を組織することも考えられるでしょう。

既に、ベーシックあるいはその一部の動作でSDを楽しんでいる団体もあり、また、プラス、アドバンス、チャレンジのプログラムを楽しんでいるクラブがあり、SD愛好者としてS協に登録することができます。いっそう高齢化、多様化、複雑化が進む社会において、様々な楽しみ方をする愛好者が増えることを期待したいと思います。

S協の会員となる学校や学校のクラブ（部）、会社や地域のサークルが増えることにも希望が持てるのではないのでしょうか。

S協として、SD普及に向けて新しい取り組み*⁵を始めようではありませんか。

先ず一歩踏み出すことが、いま、求められているのではないのでしょうか。

愛好者の高齢化への対応についてのアンケート調査報告

2017.8.19
普及特別委員会

1. アンケート調査結果

2017年7月10日～8月10日に掛けてS協加盟全団体を対象に「愛好者の高齢化対応」についてアンケート調査を実施致しました。回答団体数は302団体で回答率は表-1に示す通りです。

表-1 アンケート回答率

支 部	全 体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中四国	九州
回答数	302	17	22	137	39	31	27	26
加盟団体数	532	34	37	261	74	57	41	28
回答率%	57	50	59	52	53	54	66	93

表-2にアンケートの集計結果としての統括支部別の70歳以上の愛好者の状況を示します。

表-2 統括支部別70歳以上の愛好者の状況

集計支部	%	合計	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国四国	九州
報告クラブ数	57%	302	17	22	137	39	34	27	26
会員数(人数)	66%	9552	385	563	5092	1178	1262	556	516
在席状況									0
70歳以上人数	49%	4666	211	319	2539	460	629	220	288
会員の年齢分布									0%
69歳までの人数	51%	4886	174	244	2553	718	633	336	228
70歳から79歳までの人数	43%	4088	176	281	2261	408	537	187	238
80歳以上人数	6%	578	35	38	278	52	92	33	50
70歳以上のSDキャリア									0
10年以上	59%	2769	164	196	1465	294	361	106	183
5年から9年	22%	1046	34	67	605	82	170	45	43
5年未満	18%	851	13	56	469	84	98	69	62
70歳以上のプログラム									0
B	4%	177	0	3	95	4	44	9	22
MS	26%	1221	25	113	622	139	165	77	80
P以上	70%	3268	186	203	1822	317	420	134	186
70歳以上の出席状況									0
ほぼ毎回	83%	3877	204	284	2062	378	498	195	256
半分以上	11%	522	4	25	331	53	64	15	30
半部以下	6%	267	3	10	146	29	67	10	2
70歳以上のパーティー参加状況									0
よく参加している	25%	1158	66	67	666	100	146	55	58
時々参加している	38%	1775	84	79	1009	163	188	109	143
全く参加していない	37%	1733	61	173	864	197	295	56	87
配慮したプログラム有無									0
①毎回ある	8%	25	1	2	7	2	3	5	5
②時々ある	6%	19	1	1	8	1	3	2	3
③ない	85%	258	15	19	122	36	28	20	18

支部によって、高齢化の状況は一様ではありませんが、愛好者のほぼ49%は70歳以上であり内6%は既に80歳以上の年齢構成となっています。また、70歳以上のキャリアを見ると59%が10年以上でした。また、5年未満が18%となっており70歳前後から始められた愛好者の数も多いことが判ります。

ダンスプログラムはキャリアが10年以上の比率を上回る70%がプラス以上を踊っていることが判ります。また、パーティー参加状況もよく参加している25%と時々参加している38%を合わせると63%がパーティー参加で楽しんでいることが判ります。

また、現時点では70歳の会員は大多数が10年以上および5年から9年のキャリアを有しており、例会においては特に高齢者の配慮したプログラムを準備していないクラブが85%と多数になっていますが、14%のクラブでは何らかの配慮がされていることが判ります。

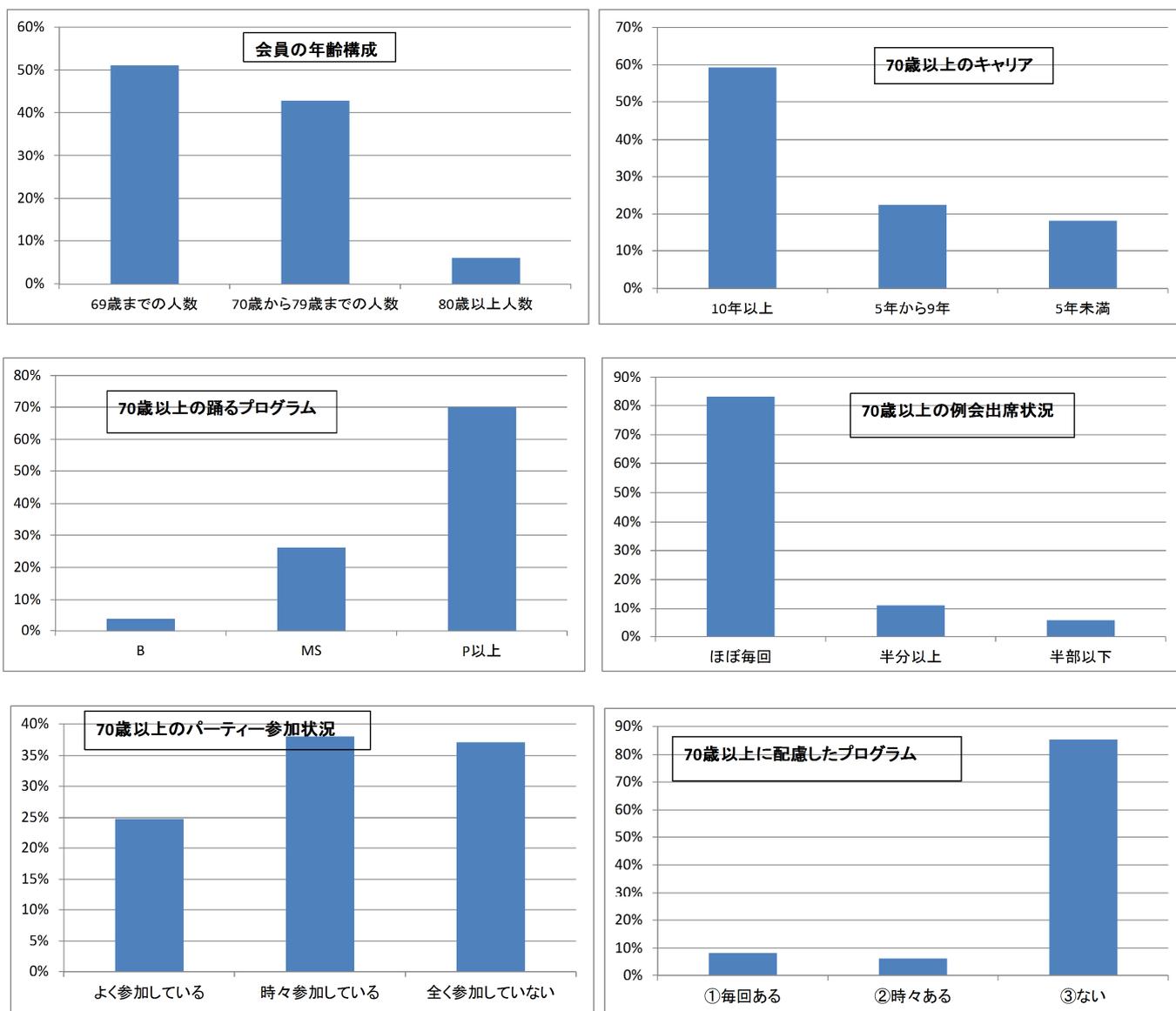


図-1 70歳以上の愛好者の状況

なお、自由記述で次のような回答がありました。(類似の回答はまとめて整理してありま

す。)

●70歳以上の会員はスクエアダンスを継続していくためにはどのような事を望んでいますか。

- ・夜例会の参加が難しくなり、昼例会を希望する人が増え始めた。
- ・例会だけの活動で満足し特に外のパーティーへの参加は望まない。
- ・コスチュームの着用について、様々な感想が聞かれる。
- ・易しくても楽しめるダンスを望んでいる人がいる（難しくなくてよい）。

●70歳以上の会員が楽しめるような工夫を何かしていますか。

- ・ダンスだけでなく、その後のアフターも楽しみな人への対応。
- ・年齢ではなくキャリア（経験年数）で工夫が必要。

●今後、70歳以上の会員への対応について考えていることが何かありますか。

- ・昨年から夜例会に加えて平日の昼間に例会を開催している。
- ・昼例会と同じ時間帯で体験教室を開催したところ、多くの受講生が初心者講習会に参加してくれた。
- ・ビギナー教室は年齢制限が必要ではないかと考えている。
- ・入会してくる人は高齢者ばかりで、クラブの存続が心配。
- ・パーティーは体力的に午前中だけという人が多い。
- ・70歳代で始めた人は、三ヶ月程度で退会してしまう人がいる。
- ・レベルの違いに悩んでいる。
- ・70歳以上の会員は、ほとんどプラス以上に取り組んでいて、踊れなくなるまでの短い時間がビギナーコースを始めとする普及に多く割かれることへの不満が時々聞かれる。
 - ・悪天候時には例会を中止する。
 - ・難聴の方への対応が必要となる。
 - ・年齢ではなくキャリア（経験年数）で工夫が必要。
 - ・コミュニティー25、ベーシック等を中心としたパーティーがあると良い。

2. 年齢構成からの考察

2005年に実施した全S協会員を対象にした調査結果によると愛好者の年齢構成は60歳以上が45%であり、内6%が70歳以上の年齢構成でした。

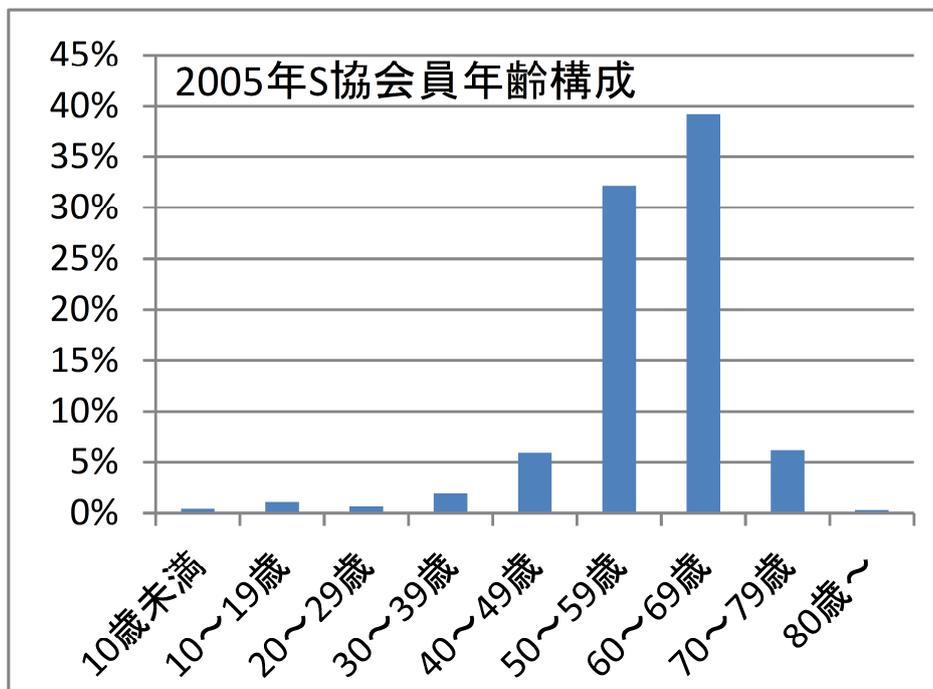


図-2 2005年調査結果による愛好者の年齢構成

2005年から12年が経過した現時点での愛好者の年齢構成は70歳以上が49%であり、内6%は80歳以上の年齢構成となっています。また、70歳以上のキャリアを見ると59%が10年以上であるところから判断すると、明らかに愛好者の年齢構成は時間経過とともに高齢化にシフトしていることが判ります。そして、今回の調査データに基づいて今後起こる事象を予測すると今後10年間の会員の年齢構成の推移は現在会員構成の49%を占める70歳以上の会員が確実に80歳以上となります。即ち、高齢者が踊れるよう環境が整備できず、また、60歳代以下の新しい愛好者を増やすことができなければ、S協会員が今後10年間で確実に減少し、合わせて、普及に大きな影響力を発揮してきた70代のコーラーもリタイアすることが予測されます。

3. 調査結果から見えてくる重点課題

今回の調査で、70歳以上の愛好者が急速に増加しており、それに対する特別の配慮が少ない実態が明らかとなりましたが、この結果から導き出される協会としての高齢者対策の重点課題は、高齢の愛好者（体力的、時間的にハンディを持つ者）がスクエアダンスを継続して楽しめる環境を整えること、及び高齢者が初心者として楽しくスクエアダンスを踊り始めることができる場を準備することといえるでしょう。会員数を確保することが、普及を安定的・継続的に実施する協会運営に不可欠と言えます。

いかなる状況下においてもスクエアダンス界を牽引していくには、協会が安定的・継続的に運営ができる基盤が必要です。協会運営は会費収入に依存している状況であり、今後高齢化による会員の減少があるとすれば、それは深刻な問題です。高齢化に伴う対策は、次期中期計画の中で取り組むべき最重要課題になることでしょう。

S協が創設された1980年から2005年に至る25の間は一貫して成長期で、創設当

初 2000 人程の会員は当時「会員 1 万人運動」の普及活動が功を奏して 1 万 4 千人に届くまでとなりました。しかし、2005 年以降会員の伸びは鈍化し、2013 年からは 1 万 5 千人を前に足踏み状態となりました。今回の調査結果を受けて、S 協は 10 年後を見据えた基本方針を掲げて取り組んで行くことが必要と考えます。調査結果から見えてくる重点課題を以下に列挙します。

- 会員（愛好者）数を増やすための体験者 10 万人運動

体験者 10 万人を目指すことは、引き続き重要だと思われます。10 万人にいかにか近づけるか、その対応策を考えていくことが必要です。体験会・体験教室の開催の推進に加えて、各クラブの初心者講習会の実施をいかに進めるかも大事です。高齢者も参加しやすい事業にし、事業後の活動に配慮するとともに、中年層、若年層や学校における体験者増を図る努力が必要になります。

- 次世代への継続方策の更なる強化

愛好者増、会員増という課題に対して、次世代育成小委員会では次の世代を担っていく青年愛好者の育成に取り組んでいます。この取り組みを更に強化していくため、将来のスクエアダンス界を託す青年（少年を含む）の育成に加え、近くスクエアダンス界を担う中堅世代（リーダー）の育成のタスクを設けるなど、青年・中堅層の育成を推進することが大事です。また、新しい人材を、専門委員会のメンバーや統括支部の役員あるいはコンベンションの実行委員等に充てることなどを通して、次世代を担う人材を育成し活躍の場を準備していくことも考えられます。

- 70 歳代から始めた愛好者の組織的な支援

現在は 70 歳代の愛好者の大多数は 70 歳以前に始められた方が多く、またダンスプログラムも PLUS 以上が 70% の技量をもちクラブとしても特別な配慮がされていない実情となっていますが、一方では 70 歳以上の愛好者の 18% が 5 年未満のキャリアで、パーティーには 37% の方が全く参加していない状況にあります。これら方々への支援は各クラブにお任せすることだけでは難しいと考えられますので、協会の事業として施策を考え、各統括支部（または県連）が支援していくことが適当と考えられます。

4. おわりに

今回の調査結果を受けて、次年度からの次期中期計画において、高齢化への対応など協会として取り組む基本方針の再確認、再構築を行い、各組織、統括支部と連携しながら S 協が一体となって施策を考え、取り組むことが必要と考えます。今後の S 協の会員のあり方、地域へのスクエアダンスの普及、人材と資金の確保など、様々な観点から皆様と共に考えながら、10 年後を見据えた次期中期行動計画を策定し、実行に移して参りますので、よろしくお願ひいたします。

第2章 体験会・体験教室の実施（運用）マニュアル

1. はじめに

このマニュアルは、これまで各クラブで実施されている初心者講習会（ビギナークラス）の初日、あるいは講習会の前に行われてきた無料体験会や見学会などには言及していません。各クラブのご努力により例会の中で行われてきた無料体験会や見学会は、これからも、工夫を加えながら大いに実施していただきたいと考えております。

このマニュアルは、例会とは別に、クラブや県連組織等が新たに体験会・体験教室を企画する際に利用いただく際の参考資料として作成したものです。

2. 「体験会」開催の実施

2-1 「体験会」とは

「体験会」と「体験教室」との違いはどこにあるのでしょうか。

両者とも広くスクエアダンス（SD）の体験者を増やす目的で実施するイベントであることは共通しますが、次のような違いがあります。

「体験教室」は、予め参加者を募集して一定の期間（時間）を費やして、簡単なSDの動作を幾つか講習しスクエアダンスの楽しさを体験して頂く場です。これに対して、「体験会」は、1時間～半日程度の限られた時間(回数)の中で、当日集まった不特定の方を対象にSDの紹介と簡単な動作だけを用いて、SDがどのようなものであるかを体験してもらう場です。

2-2 開催時期・開催時間・回数

「体験会」は単独で開催するというより、むしろ自治体や公民館等のまつりや、大学・高校の文化祭・体育祭、小・中学校のPTA活動など各地域で開催されているイベントの出し物の一つとして企画に参加し、実施する機会が多いと言えます。この場合は、開催時期、開催時間、回数などはそれぞれのイベントによって決められるので、先ずエントリーできる可能性があるイベントを調べるのが先決です。

一方、単独で行う「体験会」については、後述する「体験教室」の項と共通することが多いので、そちらも参考にしてください。

2-3 会場の予約

公民館まつりや大学の文化祭などのイベントの中で行う「体験会」については、既に会場が決められており、特に予約は必要ない場合が多く、むしろ全体のプログラム中のどこで（体育館、ホール、広場(グラウンド)、会議室・教室など）で実施できるかがポイントになります。

2-4 主催・後援等

「体験会」の場合の主催や後援の扱いは、実施されるイベントによって様々です。多くの場合は主催は自治体や公民館などの施設で、体験会・体験教室を実施する者は、協賛団体や協力団体、後援団体として参画することになります。（イベントにより、主催や共催に名

を連ねることが可能な場合もありますから、イベントの主体となる方に尋ねると良いでしょう。これらのイベントに、S協として後援等の名義を使える場合には、S協事務局にご相談ください。)

2-5 目標参加人数

概ね参加するイベントの規模によって参加人数の目算ができます。多くの場合は、例年のそのイベントの規模を事前に把握しておくことである程度の予想できるでしょう。SDの紹介する目的でデモダンスを実施する場合には、事前に会場の広さやイベントに参加している人数を把握しておく必要があります。もし舞台発表という形式の場合は、その舞台の広さにあわせたセット数を準備しておくことが必要になってきます。

2-6 参加費

「体験会」で参加費を徴収することは難しいと思います。(むしろ、参加費の徴収は適当でないかもしれません。)音響機材費、運搬費など掛かる経費は事前に試算し、その経費をどの様に処理するのかは参加する組織で前もって取り決めておく必要があります。イベントの主催者に支援いただける場合もありますから、事前に確認すると良いでしょう。

2-7 音響機材

音響機材は参加する組織が手配することが望ましいと思いますが、組織としてイベント会場に適した音響機材が手配できない場合は、前もって借用等の手配が必要です。

2-8 エンジェルの手配

「体験会」では、先ずデモダンスを行う場合が多く、必要なセット数のダンサーをあらかじめお願いしておくことが必要となります。この場合はデモダンスですから、そのイベントに集まる対象者層に合わせたダンサーをお願いすることが必要です。デモダンスの後に体験タイムがある場合は、デモダンスのダンサーがエンジェルとしての役割も同時に果たすこととなります。

2-9 指導者

「体験会」の場合の指導者は、コーラーをお願いすることが必要です。デモダンスでは女性のスカートワークや変化に富んだ隊形の変化の工夫ができ、また、シンギングコールでのショーマンシップがあると盛り上がることでしょう。ベテランのコーラーが望ましいのですが、本当に大切なことは、"ダンスの楽しさを伝える力と参加者に対する立ち居振る舞い、言葉遣い"といえます。しかしどうしてもコーラーの手配ができない場合は、TAIKENプログラムの音源を使ってモデルダンサーにスクエアダンスを踊って頂き、その様子を一般の方々に見て頂くことが可能です。

2-10 予算措置

参加費のところでも記載しましたが、企画の段階で予算書を作成しましょう。「体験会」の場合は、事前に必要な予算費目を考えることができますから、適切な予算管理ができる

と思います。

2-1-1 教材

「体験会」の場合は、教材というよりはむしろSD紹介パンフレットの的なものを事前に作成し用意することが適当です。統括支部や県連等の主催で参加する場合は、それぞれの地域のSDクラブの紹介マップや初心者講習会のチラシ、SDを紹介したリーフレットを配布すると良いでしょう。

2-1-2 宣伝方法

宣伝は、イベントへの参加種目の一つとしてSDが紹介されることになりますが、主催イベントとは別に、体験会のチラシを作って配布すると、独自に参加者を動員するうえで効果的です。

2-1-3 当日のプログラム

当日のプログラムは大きく分けて、①デモダンス（SDを見せる）；②簡単な動作の講習（体験させる）；③講習した動作で楽しく踊らせる（踊込み）、の3つに分けられます。全体の時間配分を考慮して、時間内で最も効果的なプログラムを組むことが必要です。S協が作成した体験会・体験教室用の推奨プログラム（TAIKENプログラム）も参考にしてください。コーラーの手配が困難な場合は、①はTAIKENプログラム音源で出来ます。が②、③を行う場合は「初めてのTAIKENプログラム音源」が別途ありますのでこれを利用することもできます。「初めてのTAIKENプログラム音源」には、コールだけではなく初めての方を対象にした動作の講習（説明）が音源に収録されています。

2-1-4 準備期間

「体験会」の意義を広く会員に理解させること、そして、時間をかけた協力要請と広報活動をする必要があります。場合によっては、デモダンスはお揃いのコスチュームで踊ったり、あるいは、事前に入退場の方法などの練習を行うことが必要になるかも知れません。会員の皆様にSDの良さを再認識いただいたり、普及することの大切さを理解いただくうえで「体験会」を実施することには、とても意義があるといえます。

2-1-5 協力者

「体験会」実施に当たっては、協力者の存在はとても心強いもので、クラブの企画として実施することが望ましいでしょう。担当者を決めて、組織としての取り組みが効果的で、実施前には例会で協力を依頼しておく良いでしょう。

2-1-6 チラシの作成

S協では体験会・体験教室用のチラシのデザインコンテストを2016年11月に実施しました。その成果は、入賞作品としてすでにS協のホームページに掲載されています。体験会・体験教室開催に必要な項目は加筆できるソフトとして提供されていますので、ご活用下さい。

3. 「体験教室」開催の実施（運用）

3-1 「体験教室」とは ～戦略的シナリオ～

クラブで実施する場合、一部の方が実施するのではなく、クラブの会員全員で取り組む仕組み(工夫)を作ることが大切です。S協ニュース No. 272 (2017年1月号)の「目指せ体験者10万人」記事に掲載されている我孫子SDCの体験会の報告は正にその模範事例です。

3-2 開催期間・開催時間・回数

「体験教室」は、これまで多くのクラブで実施されている初心者講習会の前、または初日に行う無料体験会や見学会とは、全くその趣旨が違います。体験教室は、SDの楽しさを出るだけ簡単な動作で知って頂くことを目的としたものです。初心者講習会の前に数回に限りオープンとし、その後はクローズとするものではなく、「体験教室」は、一定の期間に一般の方々にSDを体系的に体験してもらう場を設けていただくことが必要です。

3-3 会場の予約

「体験教室」は例会とは独立したイベントと位置付け、会場は便利で多くの方が集まりやすい会場（もちろん、例会と同じ会場でもかまいません。）が望ましいでしょう。

なお、複数回の開催の場合は、異なる会場になると継続して参加する方が激減するリスクがありますので、できるだけ同じ会場で開催できるように日程で調整して下さい。

3-4 主催・後援等

主催はクラブのほか、クラブのある県連、地区ブロック組織、統括支部など様々な形態が考えられます。また、公民館やコミュニティセンター、カルチャーセンターなどでもかまいません。できれば実施前に統括支部に企画書を提出し、共催や後援を申請して下さい。統括支部の後援があるとイベントの信頼性が高まります。(S協の後援や協力の名義使用もできますので、S協事務局にご相談ください。)

3-5 目標参加人数

できれば事前に目標とする参加人数を設定する事をお勧めします。その目標に向かって皆さんが取り組む過程が、SDの普及にとっても重要です。仮に目標人数に達しなくても、その過程はSDの知名度を広める活動として価値あるものです。また、一定期間開催する場合は、毎回新しい参加者を受け入れる工夫が必要となります。

3-6 参加費

会場費等の経費は、できるだけ参加者から集めていただき、独立採算で実施をして下さい。無料で行うことにも意義はありますが、常識的な参加費（例えば1回500円、あるいは、月1,000円程度）であれば、過去のイベント参加者のアンケート結果を見ても、参加費は妥当との意見が多数を占めています。

3-7 音響機材

音響機材は、会場の広さや参加人数に適した機材で対応いただくことが望ましいです。クラブによっては、例会規模と「体験教室」の規模が異なる場合がありますから、必ずしも例会で使用している機材は必要なく、その規模に合わせた機材で十分です。小規模な体験教室であれば、TAIKEN プログラム音源 (CD) をカセットプレイヤーで再生することも可能です。

3-8 エンジェルの手配

SD は 8 人が揃わないとセットが組めませんので、できれば事前にエンジェルをお願いしておくことが望ましいでしょう。通常の場合、エンジェルはベテランダンサーが良いとされてきましたが、この「体験教室」のエンジェルは、経験の浅いビギナーの方でも十分に務まります。ビギナーにとっても復習になる良い機会となりますので、ビギナーに協力を求めてみてください。

3-9 指導者

指導者はベテランのコーラーである必要はありません。簡単な動作を説明できる方であれば十分に務まります。もし、コーラーが不在のときは、普及サポーター (ダンサー) が「TAIKEN プログラム」用の音源を利用して開催することが十分可能です。

3-10 予算措置

参加費のところでも記載しましたが、企画の段階で予算書を作成しましょう。そして、その費用が参加費で賄えることが望ましいのですが、もし、参加人数が少なく賄えないときは、主催者の方で事前に予算措置をしておくことが必要です。結果的に「赤字になったので何とかして欲しい」という姿勢は望ましくありません。

3-11 カリキュラム

カリキュラムは、S 協が「体験会」・「体験教室」の開催日数に合わせて作成した推奨カリキュラム (TAIKEN プログラム) をご利用ください。TAINEN プログラムは共通コース+第 1 回～第 6 回講習課題で構成されていますが、これらを全 7 回で進める必要はありません。体験教室のカリキュラムは、TAIKEN プログラムを参考にして体験教室の回数および参加者の年齢構成・人数などをみて判断して決めることが必要です。

3-12 教材

教材は日本 FD 連盟発行のテキスト「絵でみる SD ハンドブック」を参考にさせていただくことをお勧めします。用意する教材は分冊で用意し、初日は TAIKEN プログラムの共通コースの 7 動作を「絵でみる SD ハンドブック」から抜粋して教材 (その 1) として配布し、その後、体験教室での習得状況をみて追加の動作の教材 (その 2) を配布して講習することをお勧めします。体験教室は動作の講習を目的とするものではありませんので、TAIKEN プログラムの共通コースの 7 動作だけでも十分に楽しく踊らせることが出来

ます。体験教室での講習動作は、出来るだけ限られた動作にすることが大切です。

3-13 宣伝方法

宣伝方法は、各クラブで実施している初心者講習会での宣伝方法と類似した方法となります。その中でも、会員の口コミが最も勧誘手段としては効果が大きいです。市の広報・新聞・雑誌、公共機関へのポスター掲示など可能な事は何でも挑戦してみてください。まずは大規模な企画ではなく口コミで少人数の参加者の見込みが立てば、実行に移して下さい。

3-14 準備期間

クラブの会員への協力要請と広報活動を考慮すると、イベントの企画は開催前の半年前くらいから準備することが望ましいでしょう。アニバーサリーや例会に見学に来られた方の連絡住所を記録しておき、ダイレクトメールと返信はがきを入れてご案内をしているクラブがあります。

3-15 協力者

協力者の存在はとても心強いものですが、必ずしも必要条件ではありません。まずは、「体験教室」を実施するというご自分の『本気』こそが不可欠な条件です。この『本気』に共感する協力者は必ず現れます。

3-16 チラシの作成

S協では体験会・体験教室用のチラシのデザインコンテストを2016年11月に実施しました。その成果は、入賞作品としてすでにS協のホームページに掲載されております。体験会・体験教室開催に必要な項目は加筆できるソフトとして提供されておりますので、ご活用下さい。

チラシデザインコンテスト 入賞作品

<http://www.squaredance.or.jp/jimu/joho.html>

4 おわりに

体験会・体験教室は、未経験者にスクエアダンスを体験して頂くことを目的で開催するものであることをご理解ください。

体験会・体験教室の開催が、直ぐに初心者講習会の受講生の確保につながるものではありません。まずは普及サポーターの皆様が、未経験者にスクエアダンスを体験して貰うことの楽しさを、自ら味わって頂くことが最も大切なことなのです。

普及サポーターがダンサーの20%規模になり、コーラーの資質の向上、会員の意識の高まりにより、体験会・体験教室が年間を通じて各地で開催され、体験者が増えることを期待しています。

2020年1月号のS協ニュース(Vol290)の巻頭言で、沖吉会長は新しい普及方策の取り組みについて「世界的にSD愛好者の高齢化、減少傾向への対策が課題となっています。こうした中、私たちは、ベーシックを大切に、体験者を増やすためのTAIKENプログラムを開発し、普及サポーターを育成するなど他の国にはない新しい普及策に取り組んでいます。」と述べております。これらの取り組みをしっかりと根付かせるためにも、そしてスクエアダンスの楽しさをもっと多くの方々に知って頂くために、この新しい普及方策を統括支部内で、地区レベル、県連単位、クラブ単位にまで具現化して行かなければなりません。

2015年度から6年に亘ってS協としての新しい普及方策の推進を地域普及小委員会が担って参りましたが2020年度よりその推進は各統括支部の活動に移行されます。各統括支部の実情に即して、それぞれの特色のある普及サポーター育成および体験会・体験教室の開催が行われることとなります。

各統括支部における活動を推進する役割を担うのが2020年度より新設される統括支部活動推進委員会になります。本資料が、各統括支部の普及活動のお役に立てば幸いです。

少子高齢化が進む中、スクエアダンスの愛好者の現状が危惧されています。併せて、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うスクエアダンスの活動の休止等の影響が心配される今、スクエアダンスの新しい普及方策である普及サポーターの育成と体験会・体験教室の拡充が、スクエアダンス復興の鍵を握っているのではないのでしょうか。

最後になりましたが、スクエアダンスの新しい普及の方策の推進は、2017年に技術委員会体験教室教材作成タスクチームの開発したTAIKENプログラムなくしては成立致しません。勝亦副会長（技術委員長）及び協力頂いたコーラー（荒木義昭、大川孝太郎、金子裕行、篠ヶ谷紀子、森口久江、若松真紀子）各位に心より労をねぎらい、感謝いたします。

なお、本資料作成に当たりましては沖吉会長、中村副会長（普及委員長）、半田常務理事に多岐にわたるご助言を頂きました。御礼申し上げます。

2020年4月

地域普及小委員長 辻田 満